



高校野球のマナーとルールを学ぼう (第82回)



一般財団法人兵庫県高等学校野球連盟

グラウンドでの試合を振り返り、高校野球の大切なマナーとルールを学びましょう。
あなたの「なぜ? どうして?」にわかりやすくお答えします。

ルール編 > 正式試合とは

選手権兵庫大会と秋季県大会では、雨天時の試合がありました。幸いにも9回まで行われましたが(得点差によるコールドゲームを除く)、天候等により試合が継続できなくなれば、どうなるのでしょうか。一緒に考えてみましょう。

野球規則 7.01(a)では、「正式試合は、通常9イニングから成る」と定められています。

また、天候等などの理由により、「球審によって打ち切りを命じられた試合(=コールドゲーム)が次の(1)~(3)に該当する場合、正式試合となる」とあります。

- (1) **5回の表裏**を完了した後に、打ち切りを命じられた試合。(両チームの得点の数には関係がない)
- (2) **5回表**を終った際、または**5回裏**の途中で打ち切りを命じられた試合で、ホームチーム(後攻チーム)の得点がビジティングチーム(先攻チーム)の得点より多いとき。
- (3) **5回裏**の攻撃中にホームチーム(後攻チーム)が得点して、ビジティングチーム(先攻チーム)の得点と等しくなっているときに打ち切りを命じられた試合。

高校野球では、高校野球特別規則 20 において、「審判員が試合の途中で打ち切りを命じたときに正式試合となる回数の規則 7.01(c)については、**高校野球では5回とあるのを7回と読み替えて適用する**」とあり、上記(1)~(3)では、すべて7回と読み替えるため、7回をもって試合が成立することになります。



それでは、次のような試合で考えてみましょう。

チーム \ 回	1	2	3	4	5	6	7	8	9
A 高校	0	0	1	0	0	1	0	3	
B 高校	1	0	0	1	0	1	1	0+α	

この試合は、8回裏、B高校の攻撃中に雨が強まり試合が打ち切られたものです。

7回裏が完了しており、すでに正式試合として試合は成立していることが分かります。

では、どちらのチームが勝利したのでしょうか。8回裏、B高校の攻撃時においては、A高校が5対4でリードしています。

野球規則 7.01(4)[注]では、「ビジティングチーム(先攻チーム)が正式試合となった後、a回(この試合では8回)の表でリードを奪う得点を記録したが、表の攻撃が終わらないうち、あるいは裏の攻撃が始まってもホームチーム(後攻チーム)が同点またはリードを奪い返す得点を記録しないうちにコールドゲームが宣せられた場合は、サスペンデッド

ドゲームとしないで、両チームが完了した**最終均等回の総得点**でその試合の勝利を決することとする」と規定されています。(説明のため必要箇所のみ抜粋)

したがって、8回裏に移った時点では、A高校がリードしていますが、後攻のB高校が同点またはリードを奪い返す得点を記録していないので、最終均等回、つまり7回における総得点、2対4でB高校が勝利を収めることになります。

本年秋季県大会においても雨天の中、実際に7回まで上記と同様のスコアで進んだ試合がありました。その試合は、9回で終了したので、コールドゲームにはなりませんが、試合に携わる指導者や審判委員は、正式試合となる状況や正式試合となった場合の得点などを十分に理解しておく必要があります。



【参考】

「サスペンデッドゲーム」とは、野球規則 7.02 に規定されており、この項に定められた理由((1)~(6))で試合が打ち切られた場合、一時的に停止した状態で、後日、試合を再開して完了させるゲームのことを言います。

なお、高校野球では、高校野球特別規則 25 において、サスペンデッドゲームは適用しないこととされています。

イラスト協力: 兵庫県立姫路工業高等学校デザイン科
吉田 那奈さん(2年)(上)
中山 亜美さん(2年)(下)